

令和 3 年 5 月 29 日現在

機関番号：32620

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K17395

研究課題名(和文) 心血管疾患患者の就労継続及び職場復帰に資する研究

研究課題名(英文) Sick leave and Return to work among Japanese employee with cardiovascular disease

研究代表者

遠藤 源樹 (Endo, Motoki)

順天堂大学・医学部・准教授

研究者番号：60739209

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,700,000円

研究成果の概要(和文)：心筋梗塞罹患社員のフルタイムでの勤務ができるまでの日数の中央値は69日で、参照となるがん罹患社員と脳卒中罹患社員の場合はそれぞれ、201日、259日であり、心筋梗塞罹患社員は、がん罹患社員や脳卒中罹患社員と比較して、かなり早期に、フルタイム勤務ができる健康状態に回復していたことが示唆された。心筋梗塞罹患社員における、短時間勤務もしくはフルタイム勤務のどちらかの勤務形態で復職するまでの日数の中央値は38日であり、がん罹患社員と脳卒中罹患社員の場合はそれぞれ80日、106日で、心筋梗塞は、がんや脳卒中と比較して、早期に復職しやすいことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「心血管疾患と就労」に関するコホート研究はわが国では皆無であり、心血管疾患患者の病休日数、復職率、5年勤務継続率等、就労に関するエビデンスが殆ど無いのが現状であった。これらのデータにより、心血管疾患患者の病休制度・復職後時短制度等の検討資料等、政府の一億総活躍の最重要政策である働き方改革に寄与する、日本初の疫学的知見が得られ、社会に還元することができる。

研究成果の概要(英文)：In Japan, employment support after undergoing treatment for cardiovascular diseases is expected to become more important in the future due to the high proportion of aging population. In Europe, many previous studies have investigated employment for patients with cardiovascular diseases, but few large epidemiological studies have been conducted in Japan to date. According to the data of the Japanese-Sickness Absence and Return to Work Study (J-SAR Study), from January 1, 2000 to December 31, 2011, 130 individuals availed sick leaves due to acute myocardial infarction. The mean age at the time of sick leave was 53.3 years. The median time until full-time employment was 69 days, which was shorter than that for cancer or stroke survivors in the J-SAR Study.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：心疾患 病休 復職 コホート研究

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化に伴い定年年齢は引き上げられつつあり、60歳以上の就労人口が増加傾向にあり、60歳以上に多い心筋梗塞の治療後の就労支援が、今後益々重要になることが予想される。また、医療の進歩に伴い、心筋梗塞の治療後に社会復帰できる患者の数の増加が見込まれている。北村らの報告³⁾によると、都市近郊住民40-69歳男性の虚血性心疾患の発症率が、20年間で0.6から1.2(1,000人年)に上昇し、今後、日本(特に都市部)において、心筋梗塞患者の罹患率の増加が指摘されており、定年年齢の引き上げに伴い、心筋梗塞患者の職場復帰と就労継続は今後、益々重要性が増していくことが予想されている。2016年2月23日、厚生労働省は「事業場における治療と職業生活のためのガイドライン」を公表した。がんや心筋梗塞等の疾病を抱える労働者に対して、適切な就業上の措置や治療に対する配慮を行い、治療と職業生活が両立できるようにするための、事業主における取り組みがまとめられている。

海外では両立支援に関する多くの研究が報告されているのに対して、心筋梗塞患者の就労実態に関する日本の疫学研究はほぼ皆無であり、厚生労働行政を進める上での疫学的知見が求められている。遠藤らが実施している、Japan-Sickness Absence and Return to work Study(J-SAR Study)では、心筋梗塞患者の病休と復職に関するデータベースを管理しており、日本初の心筋梗塞患者の就労支援に関する研究である。

2. 研究の目的

日本で唯一の12年間で約7万人の大規模職域コホートデータを用いて、心筋梗塞患者の就労に関するエビデンスを集積することである。

3. 研究の方法

本研究の対象者は、J-SAR Studyの病休データベース等を用いて、2000年1月

1日から2011年12月31日までの12年間について調べたところ、新規に主治医の「療養が必要」と記載された診断書にて心筋梗塞による病休を取得した労働者である。本研究では、心筋梗塞による病休開始日から365日までの病休者の転帰を、「退職」「死亡」「病休継続」「復職」の4つに分類して、それらをアウトカム（評価指標）とした。「病休継続」は、病休開始日から365日まで療養が継続した労働者と定義した。遠藤が先行研究として実施している、がん罹患社員、脳卒中罹患社員のデータとを比較検討することにより、治療と就労の両立支援における疾患別の特徴を考察することとした。

4. 研究成果

12年間のフォローアップ期間中、主治医の「病名：心筋梗塞。療養が必要」と記載された診断書が提出されたのは130名の労働者であった。本研究の心筋梗塞罹患社員の基本属性を表1に示した。男性が124名（95.4%）、女性が6名（4.6%）であり、病休時の平均年齢は53.3歳であった。心筋梗塞罹患社員のフルタイムでの勤務ができるまでの日数の中央値は69日で、参照となるがん罹患社員と脳卒中罹患社員の場合はそれぞれ、201日、259日であり、心筋梗塞罹患社員は、がん罹患社員や脳卒中社員と比較して、かなり早期に、フルタイム勤務ができる健康状態に回復していたことが示唆された。

心筋梗塞罹患社員における、短時間勤務もしくはフルタイム勤務のどちらかの勤務形態で復職するまでの日数の中央値は38日であり、がん罹患社員と脳卒中罹患社員の場合はそれぞれ80日、106日であった。心筋梗塞は、がんや脳卒中と比較して、早期に復職しやすいことが示唆された。フォローアップ期間中、心筋梗塞による療養後、127名が復職していた。また、復職面談時に産業医が「短時間勤務が望ましい」か「フルタイム勤務が可能である」のどちらかの意見書を総務人事担当に提出しているが、その「フルタイム勤務」の労働者の数に対する、「短時間勤務」の労働者の数の比率が2.0倍であった。これも、がんや脳卒中に比べて、産業医が、「短時間勤務が必要」と判断した心筋梗塞患者が少ない傾向にあることが示唆された。その他の病休取得者は、退職者は1名で、死亡者は0

名で、病休開始日から 365 日まで療養していたのは 2 名であった。今後、更なる解析を進めていく予定である。

	n	平均年齢 (歳)	復職するまでの 日数の中央値 (日)	フルタイム 復職までの 中央値 (日)	1. 死亡 (n)	2. 退職 (n)	3. 病休継続 (n)	4. 復職 (n)	フルタイム での復職 (n)	時短勤務 での復職 (n)	時短で復職 / フルタイム復職 (ratio)
性別											
男性	124	53.3	36	69	0	1	2	121	43	78	1.8
女性	6	52.4	42	107	0	0	0	6	0	6	.
年齢											
49歳以下	28	45.1	39	69	0	0	0	28	8	20	2.5
50歳以上	101	55.6	38	69	0	1	2	98	35	63	.
地域											
都市部	83	52.9	35	65	0	1	2	80	29	51	1.8
田園部	47	54.1	44	93	0	0	0	47	14	33	2.4
管理職/非管理職											
非管理職	129		38	69	0	1	2	126	42	84	2.0
管理職	1		36	36	0	0	0	1	1	0	.
職種											
デスクワーク	81	53.9	39	100	0	0	1	80	26	54	2.1
身体を主に使う仕事	49	52.9	38	67	0	1	1	47	17	30	1.7
心筋梗塞患者全体	130	53.3	38	69	0	1	2	127	43	84	2.0
(参照)脳卒中全体	380	52.7	106	259	9	26	62	283	69	214	3.1
(参照)がん全体	1278	51.9	80	201	132	35	74	1031	229	802	3.5

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 遠藤源樹	4. 巻 3
2. 論文標題 心筋梗塞社員の就労支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業ストレス	6. 最初と最後の頁 305-313
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------